

(仮称)「熊本県南アリーナ」建設八代誘致活動 趣意書

昨年7月4日に発生した熊本豪雨の傷跡も自治体や関係各位の懸命な復興支援のおかげで、住民の方々が再び立ち上がる姿をマスコミ等で報道されるようになりました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の猛威で私たちのまち八代も外出自粛要請の影響で飲食業や宿泊業など過去に例を見ない疲労感が漂い、未だ解決の糸口が見いだせず、ウィズコロナに向けて新たな八代のまちをどのように描くか模索が続いております。

一方で、八代に新たなまちづくりの中核となる大規模なスポーツ・エンターテインメント・イベント・催事等が開催できる施設がなく、また、八代厚生会館は文化事業としての施設の役割を終えようとしています。そのためにも八代地域における文化事業の拠点としての役割が求められております。

このような中、熊本市に本拠をかまえ設立10周年を迎えるプロバスケットボールチーム「熊本ヴォルターズ」が2024年度シーズン開始までに、B1ライセンス取得を目指すことが発表され、その条件の一つである「観客5000人以上の専用アリーナを確保できていること」に向けて活動を開始されています。

そこで、B1昇格を目指す「熊本ヴォルターズ」がアリーナを確保するため、去る8月28日に開催されたシンポジウム「熊本の未来をアリーナで創ろう」で紹介された候補地条件を検証しますと、『建設地周辺環境と住民の応援態勢が不可欠である』とありました。

その結果を受け、「熊本ヴォルターズ」は9月から準備に取り掛かり、現在複数の候補地が検討されているところです。

八代は新幹線、在来線、高速道インターチェンジ、八代外港、くまモンポートなど東西南北の交通網が整備され、最高の立地条件が備わっており、文化施設も兼ねた複合アリーナを起点に人流の増加や地域活性化が期待できるところです。

誘致の申請主体は八代市になりますことから、私たちは積極的にバックアップ体制を整えていきたいと考えています。

つきましては、(仮称)「熊本県南アリーナ」の建設に向けて支援するため、極めてタイトなスケジュールではありますが、11月中旬の申請締め切りまで、最大限の努力を行います。八代市民の盛り上がりがかぎを握りますので、署名運動や街頭イベント等の企画に何とぞご協力、ご参加のほどよろしく願いいたします。